

|  |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
|--|---|-----|---|--------------|-----------------|------------------|----|----------|------|----------|-----|
| 授業科目名<br><英訳>  | 中国哲学史(特殊講義)<br>History of Chinese Philosophy (Special Lectures) |     |   |              | 担当者所属・<br>職名・氏名 | 人文科学研究所 教授 武田 時昌 |    |          |      |          |     |
| 配当<br>学年   | 3回生以上   | 単位数 | 2 | 開講年度・<br>開講期 | 2015・<br>後期     | 曜時限              | 木2 | 授業<br>形態 | 特殊講義 | 使用<br>言語 | 日本語 |
| 題目   | 易を読む  |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 【授業の概要・目的】   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| <p>生き方、考え方の中国的パラダイムは、老子と易を思想源とする。老子は道教、易は儒教のそれぞれの聖典であったが、両書が主張する自然哲学、処世観はきわめて類比しており、道家と儒家、老子と孔子という学派的な対立の図式にあるというより、むしろ相補的な関係にあった。したがって、両書の読まれ方は、宗教哲学と政治思想という枠組みを逸脱して多角的、横断的であり、その往来、交差する場所に中国思想の基層構造が形成された。そこで、後期は易の特色的な言説を選読しながら、古今の人々にどのように読まれてきたかを検討し、中国的思惟の本質を探る。</p>   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 【到達目標】   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| <p>負荷領域を伴う自己の世界線がどこに収束し、どのような未来が待ち受けているのかを、易象数による現象把握を自在に活用して第三者的に「観測」することに挑む。</p>   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 【授業計画と内容】  |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| <p>易は、数を極めて未来の生き方を占うト筮書としての機能を保持しつつ、天地自然の摂理や人倫社会の道徳を論じた哲理の書として扱われる。八卦の象数に投影された数理や哲理を読み解くという営為によって、その聖俗両面を導き出すことができるのである。そこで、毎回、心身を潔めて卦を立て、その占辞に内包された情報を探索することから読解をスタートさせ、その自然哲学的な言説が後世に与えた影響を検討しながら、中国的思惟の構造的把握を試みる。</p> <p>本年度は、「書は言を尽くさず、言は意を尽くさず」（繫辞上傳）というドグマをめぐる言説に焦点を当て、王弼の忘象論に加えて、孟子の詩人論「意をもって志を逆（迎）う」や「医は意なり」の名医論を検討し、経書や医経が政治実践、臨床医療や生老病死にかつてどれほど有効であったのかを振り返り、「私はなぜ文学部で古典を読もうとしているのか」というテーマで学問、教養の存立意義を討議する。その後、未来を読み解く易理の特色を探り、世俗の易学（易占学）にも言及し、聖俗領域における易文化の具体的様相を窺う。</p> |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 【履修要件】   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 特になし   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 【成績評価の方法・観点及び達成度】  |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 平常点（出席よりも自主レポート等の学習意欲を重視する）。   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 【教科書】  |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 授業中に指示する   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| 【参考書等】   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| （参考書）<br>授業中に紹介する  |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |
| ----- 中国哲学史(特殊講義) (2)へ続く -----   |   |     |   |              |                 |                  |    |          |      |          |     |

中国哲学史(特殊講義) (2)

[授業外学習（予習・復習）等]

卦を立て、易の経文に親しむ。

（その他（オフィスアワー等））

旺盛な好奇心と豊かな発想による多種多様な読書活動を通して、文献読解と哲学的思索の界域を自由遊泳することを要望する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。